

## ブラジル、カンピーナス訪問記

— 日本人移民農場を見学して —

北川内科クリニック 北川 鉄 人

### 1) ブラジルとカンピーナス

日本の裏側に位置する南半球の巨大な国、ブラジル、南米は日本の50倍の広大な広さをもつが人口は1億5千万と言われている。アルゼンチンタンゴ、サンバリズム、アマゾンの秘境などが旅人の心を魅惑する。

私どもが行ったサンパウロ州辺りは産業、文化水準はブラジル最高で標高800mの高原、南回帰線に位置している。1,000万人と言う南半球最大の都市である。先住民インディオと植民地ポルトガル人達の歴史、未踏の原始郷と超高層ビルの乱立する未来都市、すべてが混在しながら、明日へ大きく羽ばたこうとしているように見えた。

私がみたカンピーナスはこのサンパウロより車で3車線の高速道路を100km (1.5時間)、広大無比の草原と田園は日本の北海道に似て

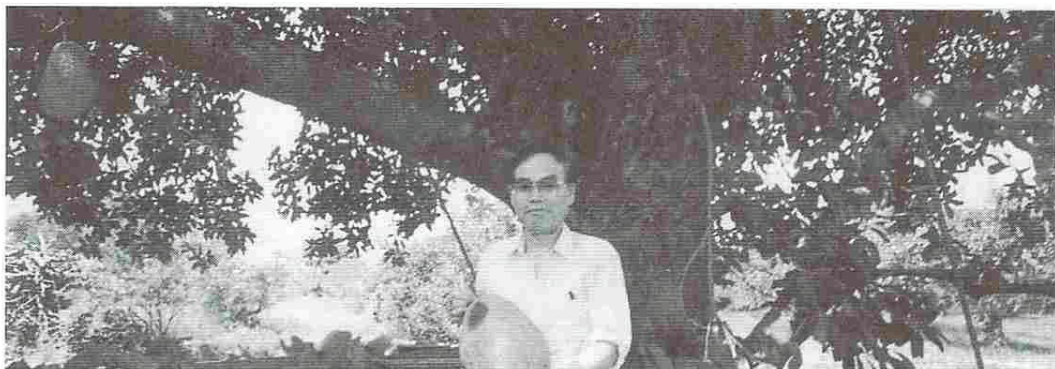
いるが眼にしみる青々とした緑の田園はその土壌の豊かさを想像できる。都市近郊でありながらまだまだ未開地がある雑草原が多くあった。突然に緑の草原は数十階建ての建物（マンション）の林立するカンピーナス市へと入る。カンピーナスは人口30万人（？）で、平均気温22～25℃でブラジル中最も過ごし易いところでスコールも多いので作物栽培に好適である。全ての作物はここに集荷された市場で出荷されるといわれる。

### 2) カンピーナス周辺の農業

#### ブラジル移民を訪ねて

○佐々木さん（88才）カンピーナス在住。9ヘクタール（98万m<sup>2</sup>）の農場を持つ。

夫人は富山県上市町出身、故人中田きよのぶさん（75才）ら数人で1934年（昭和9年）、



世界経済の不況で、日本でもあとに2.26事件、第2次世界大戦前夜、中国の事件の前夜であったという。食糧も少なく働く場所もなくなった日本より貨物船に1,000人余り乗せられて（アラビヤ丸）インド洋、ケープタウン、サントス経由でカンピーナスに入った。富山県は第3アリアンサであった。当時コーヒーの栽培より始まったが、ブタの家畜でかなり利益を得て子供2人を医者にしている。佐々木さんは最近1,200本のグイアバを作っている。みかんに似た大きさの果物である。写真はジャッカという大木の実である。ブラジルは歩合制農業という日本の戦前の地主と小作の関係のようで、土地、木などは季節労働力少くとも1/2以上の権利があり、実際の経営者のもらう分は20%にすぎないといわれる。使用農薬については余り触れなかったが、有機リン剤などが使用されている様であった。

日本人は優秀な教育を受けており、熱心で努力家で共同体を作り易いので他国の者に絶えず優位をとってきた。しかし、最近、とうもろこし500g600円、ブラジル米50kg2,000円～3,000円で示されているように農業だけでは生活は支えきれず、かつての莫大な開拓農業地は放置されている。資本投資と人件費の多い農家は倒産している。ブラジルの作物は表面が汚たないので輸出出来ない。放置された樹木よりの害虫、使用農薬の耐性のできた樹木林、政府の農業政策への無視などやるせな

い不満を言われた。

#### ○安村さん 1956年沖縄より移民

当時のアメリカ軍の日本政府のやり方と日本政府の住民の対応にやりきれなく、故郷を捨てるつもりでカンピーナスへ来た。広さは15町でトマト、タマネギの栽培をしている。最初の頃はよかったが、農作物の低コスト化で労働量の多い割に利益が少ない。

最近アマゾンの魚パク、テラピア養殖をしている。この魚1匹で一年で何万匹の稚魚となり、3年でパクは30～40cmになる。私も釣って食べたが淡水魚の味がしない（餌つけのせいかもしれない）。富山湾のインダイの味よりよかった。この魚は料理店には鮮度の関係で絶対に出されない。なんとアマゾンの味をカンピーナスで食べられるとは、ふしぎである。

#### ・巢山農場

戦前、三菱財閥 岩崎が1,600ヘクタールの土地を買いしめたいといわれ、現在もカンピーナスでは400ヘクタールと日本移民の内一番大きな農場を経営している。写真はその入口である。

#### ・ヤマギシ農場

無農薬農場 ブラジル・カンピーナス道路ぞいにあり、ここが共産主義のアジトであっ



たといわれる。日本への卵など出荷もあり、ここが中心であると云われる。

・オランブラ・ミッシェル・ワイディボイス  
ここは、極く最近、8年前に移民コテンダ、エリザベット、コリアなど20万本のビニール内栽培をしている。

・オランブラにはチューリップ栽培のところもあり、このオランブラチューリップ球根はオランダへ輸出され、さらに日本へ輸入されることになり、チューリップの元はここにあると云われた。日本の富山のチューリップはブラジル産かもしれない。

#### 富山県人会の方々に会って

県人会の人はアリアンサよりだんだん少な

くなっているが、現在1,000人以上の人が住んでいる。研修生として1人300ドル年間10人、郷土富山へ行かせるための補助をしている。30年以上日本へ帰れない人にも補助をしていると言う。会長は茶木勲さん、40年間、昭和13年以来住んでおられる。移民の夢をいただき、ここで死亡した私の友人沢田政人（津沢）の知人もおられ、宴会であったかい心よりの哀とうの意を表して来た。富山県から100万／年間の補助金がある。もっともっと日本と協力したいことがあり、たくさんの人が県人会へ寄って話してほしいと言われた。

最後までJICAの人と行動を共にして、サンパウロの領事館まで行ったので県会の人とは2時間程の時間がとれた。AM1時のブラジルの飛行機にのり、26時間、日本へ帰路の旅についた。